

コロナ禍・災害で感じた差別や生きづらさ
“それでも地域で 私たちは生きていく”

みやぎアピール大行動2020 実行委員会

2020.12.25.Fri No19

News

発行/みやぎアピール大行動実行委員会事務局
メール: appeal318@hotmail.co.jp

早いもので本年も残すところ
あとわずかとなりました。

アピール大行動2020無事終わり
現在、仙台市・宮城県への
障害福祉充実を求める
要望書提出に向け作業に入っています

また来年！
良いお年をお迎えください

私たちの大切な医療のことを、
私たち抜きに決めないでください。

★年明け早々、「3病院(県立がんセンター・東北労災病院・仙台赤十字病院)統合ではなく、現地で存続を求めると共に、さらなる医療体制充実を求める要請書」を宮城県へ提出します。現在も日程調整が行われています。提出日決定次第、実行委員会メールでお知らせします。

次回実行委員会

2021年1月27日(水)

19:00- 福祉プラザ

(「きょうされん」名で会場確保しています)

東日本大震災 3.11 震災・復興

震災遺構のバリアフリー事情、特有の難しさも



被災の実態や教訓を学び取る東日本大震災の震災遺構で、段差解消などのバリアフリーが広がっている。避難に難しさのある障害者にも日ごろから防災意識を高めてもらおうとの狙いだ。ただ、徹底しすぎると被災した建物の「ありのまま」とはいかず、関係者は悩ましさも抱える。

震災遺構として9月に一般公開された宮城県山元町の旧中浜小学校。11月中旬、震災時に児童らが夜を明かした屋上に車いすでは行けないことを確認した大原康幸さん（52）は「タブレットの情報では不十分で、見に行けないのはやっぱり残

念……」と肩を落とした。

自身も車いすの利用者で、障害者の社会参加を促そうとバリアフリー情報を発信する「障害者の移動と社会参加を広げる会」（仙台市）の副代表を務める。この日は、町教育委員会の担当者から説明を聞きながら校舎の内外を視察。障害者用の駐車場を計測したり、施設内にある段差を車いすで確認したりしていた。

「災害時の避難が困難な当事者だからこそ、震災遺構を訪れて防災意識を高めておく必要がある」。大原さんはそう訴える。

旧中浜小で注目を集めるのが屋上の屋根裏部屋だ。津波が校舎の2階天井近くまで迫る中、児童ら90人が避難して一晩を明かした場所だからだ。だが、エレベーターがなく、車いす利用者は見学できない。

町教委によると、施設の計画段階で外付けのエレベーター設置を検討はした。ただ、屋上に三角屋根がはりめぐらされ、車いすの動線を考えると大幅な改修が必要だという。担当者は「震災遺構は被災したありのままを見てもらうもの。多くの人に見て頂きたいが、原形をとどめない改修は難しい」とした。

その代わりに、校舎脇にある管理棟でタブレット端末を貸し出し、展示内容を見られるようにはしている。

大原さんは「エレベーターがないと聞いて最初は腑（ふ）に落ちなかったが、物理的に無理ではしなかったが」。会は今後、町教委の検討の経緯が分かる議事録の公開を求めるという。

県内の震災遺構では、各自治体が施設整備に伴ってバリアフリーを推し進めた例が少なくない。

仙台市の旧荒浜小学校もその一つ。車いす利用者は、校舎北側のエレベーターで屋上に行くことができる。市は公共施設のバリアフリー化を求める条例を踏まえて設置したという。屋上の構造が比較的単純で、設置も容易だったという。聴覚障害者には職員が筆談に応じたり、ガイドの内容を文字に起こした資料を提供したりして配慮しているという。

被災した気仙沼向洋高校の旧校舎（気仙沼市）を用いた震災遺構・伝承館にもエレベーターが設置されている。

石巻市が整備を進める旧大川小学校と旧門脇小学校は、いずれも校舎外からの見学のみで、施設内への立ち入りはできない。

大川小は、校舎近くにスロープを設置して、車いすの人も見学できるようにする。門脇小は、校舎の隣にある特別教室の建物（3階建て）を展示コーナーにする予定で、外側にエレベーターを設ける計画だ。聴覚障害者にはタブレット端末を貸し出して、展示の解説文と同じ内容を見られるようにする。